

アインシュタイン博士の近況

アルバート・アインシュタイン博士といへば、今は全世界に知らない者が無いぐらゐる有名な學者であるが、1879年獨逸ウルム市に生れ、スキスのチウリヒ大學に學び、特許局技師時代に、かの「特殊相對原理」を發表したのが1905年の日露戰爭の最中の頃であつた。しかし其の頃は其んな論文を誰も相手にしなかつた。其の後、招かれてベルリンに移り、歐洲戰爭中の1915年に「一般相對原理」を發表した。しかし此の時も、尙ほ、世間は此の新説に冷淡であつた。1919年五月二十九日、英國ケンブリヂ大學のエデントン教授が、南太西洋上の日食觀測に出かけて、星の光の屈曲を認め、こゝに始めて相對原理の誤りでないことを立證したので、一時にドツとアインシュタイン氏とレラチビテイの名が世界中に廣まることとなり、ドイツでは「戰爭に敗けたけれど、學理では勝つた！」

と信つて喜び、英國では

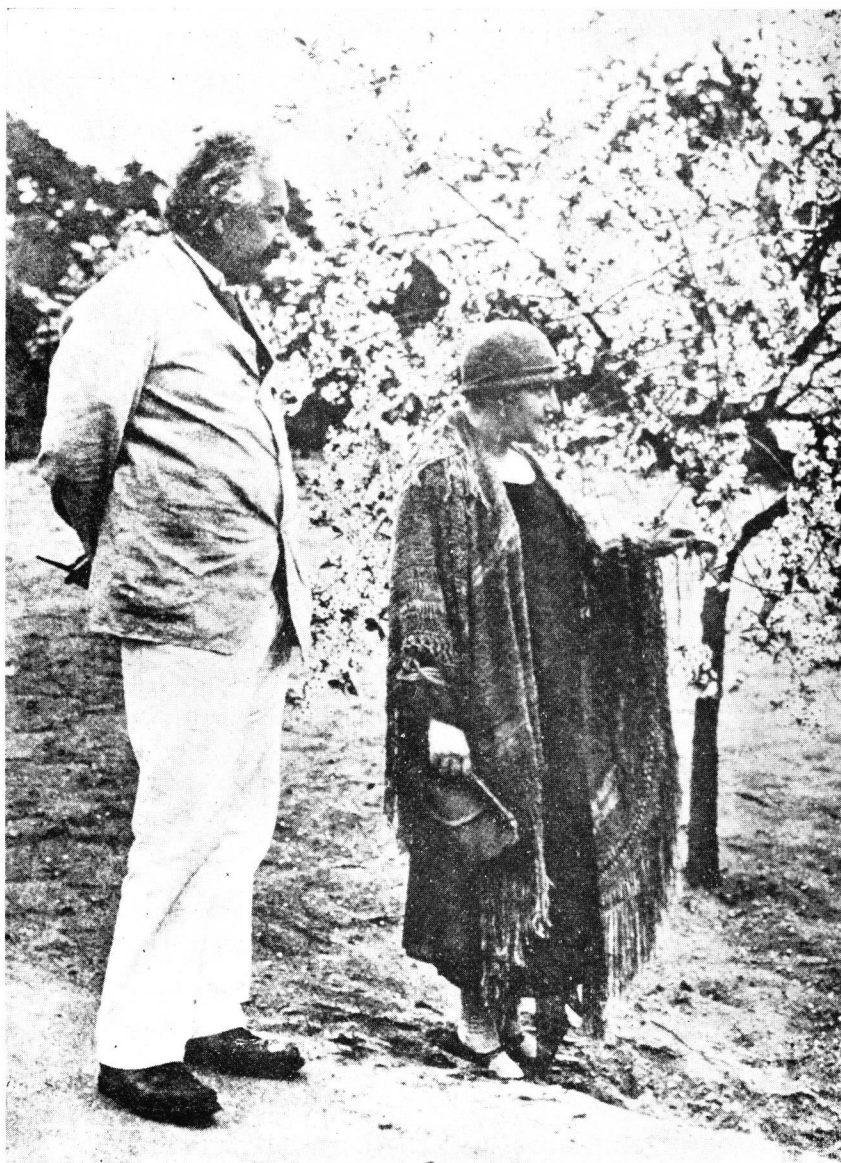
「アインシュタインの説が現はれて、ニュトンが死んだ!!」

と大狼狽した騒ぎを演じた。

アインシュタイン氏が我が日本に來たのは1923年秋であつた。其れから歐洲へ歸つても、勿論、氏は新研究新論文を續々發表したが、最近數年來、氏は重力と電磁氣とを總括する新しい Feldtheorie 研究に専心し、昨年初め既に世界を驚かした。

今1930年六月、ベルリン市で第二回世界動力會議が開かれてゐる際、氏も出席して、多くの代表者と交り、又、空間の根本性質に關する新しい學説を講演して、人々を驚ろかしたといふ、——此の講演要領は

『昔しの物理學や幾何學は皆何れも剛體の學であつて、かのユークリッドの幾何學なども、全く、剛體の持つ諸性質を解説するための幾何學であつた。始めて「空間」といふものを直接に研究の對象にしたのは、第十六世紀の佛國數學者デカルトであつたが、更に進んで、個々の物體と無關係な「絶對空間」といふものを考へたのは第十七世紀末の英國の學者



花園を散歩するアインスタイン教授夫妻

アイザーク・ニュートンであつた。しかし此のニュートンの考へは當時のみならず、其の後代の人々にも正しく解されず、大哲學者カントの如きも全く誤解してゐた。第十九世紀の中頃、英國の二大物理學者フアラデーとマクスエルとによつて、空間の幾何學的性質よりも物理的性質が確實に認められ、此の二氏は、電磁氣現象を全く全空間に満ちてゐるエーテルの性質であると考へた。尤も、二氏が何故に事新しく「エーテル」などと言ふ新語を用ゐたか、明らかでないが、思ふに、二氏はやはり當時信じてゐた説に因着して、幾何學上の空間と物理學上の空間との關係を深く辨へなかつたためなのだらう、第十九世紀末のロレンツの電磁論も亦、眞空々間の代りに空間エーテルを考へたものであつた。今二十世紀に入つて、相對原理が発見され、空間と時間との區別が無くなつたが、しかるに、最近の研究によると、物質と空間とは決して別々なものではなく「空間」だけが窮極の實在であつて、個々の物質や、物質の表はす諸運動や、引力や電磁現象などは悉く、この根本的な空間の或る特殊な性質に過ぎない』云々

といふ。アインシュタイン氏は自ら此の説が今未だ未完成のものであつて、氏の同僚間にも不賛成者が多いけれど、遠からず此の學理論を完成する望みは充分あると確信してゐる由。

去る六月八日、アインシュタイン博士が英國ノチンガム大學を訪問して地の學理の通俗講演をした時は、オクスフォード大學天文臺長ターナー教授が司會し、ブローズ H. L. Brose 博士が逐字的に之れを英語に通譯したが、之れを聞いた人々は皆驚異の眼をみはり、拍手の音暫く止まなかつた。大學評議員ハンツマン Hun sman 氏は

「こゝにアインシュタイン氏が使用した黑板を此のまゝニス塗りとして、永久に記念品として保存すべし!!」

と叫んだと言ふ。